



# ぎふ労福協

岐阜県労働者福祉協議会

編集発行人／筒井和浩

vol.124

2025.1.1

岐阜市鶴舞町2-6-7  
ワークプラザ岐阜内  
TEL(058)248-6029  
FAX(058)245-2410【岐阜労福協機関紙】 連合岐阜・東海労働金庫・こくみん共済coop・岐阜県勤労福祉センター <http://gifu.rofuku.net>岐阜県労働者福祉協議会  
会長 筒井和浩

## E新年のご挨拶

岐阜県労働者福祉協議会に集う会員の皆さん、日頃から労働者福祉運動を支えていただいている関係団体の皆さん、あけましておめでとうございます。

2024年は1月1日に能登半島地震が発災し、また、全国各地で多くの自然災害が多発した年となりました。私たちは常に自然災害と隣り合わせで暮らしており、日頃からの防災・減災の取り組みと有事の際には支え合い・助け合いの精神が必要であることが改めて明らかになったといえます。

コロナ禍を経て社会経済活動の回復は進みつつありますが、私たちの生活に直結する分野の光熱費や食品などの値上げが続いている。急速に進む少子高齢化、格差や貧困、社会の分断が深刻化するなど、私たちを取り巻く状況は厳しさを増しています。

このような今こそ、私たちは、生活困窮者支援の取り組みや、ライフサポート活動、こども食堂の取り組みなど、地域の様々なネットワークで支え合い助け合う、地域共生社会の構築をめざした取り組みを、力を合わせて進めていかなければなりません。

岐阜労福協は、昨年7月に、安定したこども食堂への食品の提供及びフードロスの解消や家庭ごみの減量を推進するとともに、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に寄与することを目的に、ワークプラザ岐阜1階と東海労働金庫岐阜支店ロビーの2箇所に「フードライブボスト」を設置しました。集まった食品は、(一社)こどもがセンターと連携し、岐阜県内の子ども食堂などを通じて、食品を必要としている子どもたちに無償で提供されています。昨今の物価高の

影響は、生活者を直撃しており、地域に寄り添った直接的な支援を行う活動が益々必要とされます。共助の輪の拡大に向け、労働団体・事業団体・労福協がそれぞれの立場で取り組んでいくことが求められます。

また、今年は国連の定めた国際協同組合年です。改めて労働者自主福祉運動や協同組合運動などの共助の輪を広げるとともに、NPOや市民団体などともつながり、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高める取り組みをともに進めて行きましょう。

今年も、中央労福協が2030年ビジョンで掲げためざす社会像「貧困や社会的排除がなく、人ととのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらせる持続可能な社会」を実現するための取り組みを、組織の枠を超えて全力で展開してまいります。

今年の干支は十干と十二支を組み合わせると、「乙巳(きのとみ)」の年となります。巳(へび)は、古代から信仰の対象とされてきた縁起の良い動物で、脱皮を重ねて成長することから「復活と再生」を連想させます。不老長寿や強い生命力につながるシンボルとされています。また、「成長」「変革」「再生」を象徴する年とされており、新しい挑戦や変化に前向きな姿勢を示す年とも解釈されています。今年1年が成長の年となるとともに、皆さま方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 2024年度「理念・歴史・政策セミナー」開催報告

2024年9月13日(金)に「ワークプラザ岐阜」5階ホールにおいて、会員・各支部の役員をはじめ、若手役員の合計80名の参加により、2024年度「理念・歴史・政策セミナー」を開催しました。

今年度は、講師に労働者福祉中央協議会講師団講師の黒河悟氏をお招きし、「『労金・全労済(こくみん共済coop)』と労働者自主福祉運動の歩み」をテーマに講演をお願いしました。

最初に、銀行は労働者には融資をしてくれなかつたことや、質屋と高利貸しからの解放を求めて労働者の金庫を設立した経過、1954年に大阪福対協が全大阪労働者生活協同組合を設立し火災共済事業を開始し、翌年新潟では火災共済事業を開始した発足直後に大火に遭遇し、手持ち金がなく「借りた金はいつか返せるが、失った信用は2度と戻らない」と労金から融資で対処した経過など、労働組合自らが主体となって労働者のために作った協同組合設立のお話がありました。

二つ目には、労働金庫は1966年に沖縄県を最後に(岐阜県は1955年)全都道府県に誕生、こくみん共済coopは1971年に沖縄県を最後に(岐阜県は1958年)全都道府県に誕生したこと、そして今日的な課題として、労金を利用している組合員は個人・団体とも2~3割程度しか利用していない現実についてお話をあり、労福協結成60年の節目に掲げた中央労福協2020年ビジョンが目指した、もう一度原点に立ち戻り、「ともに運動する主体」の再認識と強化していくことが必要であるとお話をありました。

最後に、中央労福協の2030年ビジョンにある、労福協は中央・地方で「つながる」ところから始め「つなぎ役」を担い、労金・こくみん共済coopは若い人や女性への働きかけを強め組合員の2~3割しか使っていない状況を克服し、他の生協や非正規労働者などへの拡大を強化していく必要があることを述べられ、労金とこくみん共済coopの必要性を重視した講演会でした。

### 王心・歴史・政策 岐阜県労働者福祉協議会



▲講師 黒河 悟 氏

## 中部労福協「2024年度研究集会」に参加

10月15日(火)~16日(水)京都市「ホテル平安の森京都」において、中部労福協主催の「2024年度研究集会」が開催されました。全体では55名が参加、岐阜労福協からは櫻井事務局長他4名が参加しました。冒頭、主催者を代表し中部労福協 水野会長の挨拶、開催地を代表し京都労福協 原会長の挨拶の後、2日間で以下の内容の講義を受講しました。

1日目の講義1では、京都観光アドバイザー・京都検定講師 塩原直美氏を講師に「明日の京都観光が10倍!楽しくなる75分~地元の?も!に変わる~」をテーマに講演があり、スクリーンとエリアMAPを使いながら文化財の見方などを紹介され、例えば「庭園」にも流行がある、池泉回遊式庭園・浄土式庭園・枯山水庭園・借景庭園の4つが基本、庭の場合、名勝=重要文化財 特別名勝=国宝という捉え方でOKなど、京都の歴史と観光に触れ、地元に戻ってからの散歩、また全国へ旅する際にも今後参考にしていきたいと思いました。

講義2では、京都女子大学・大谷大学非常勤講師 中村武生氏を講師に「豊臣秀吉の4つの京都城郭—政権拠点はいかに選ばれたか」をテーマに講演があり、はじめに秀吉の本拠の城といえば一般に大坂城と信じられているがそれでよいのか、4つの京都城郭(妙顕寺跡に営んだ二条城、聚楽城と武家地、伏見城と武家地、京都新城の誕生)と秀吉の戦略、織田・徳川時代の背景を振り返り新たに分かってきたことなどを話され、京都の歴史に思いを馳せ興味深く聞くことができました。

2日目の講義3では、レジリエント・シティ京都市統括監 藤田裕之氏を講師に「今後のSDGs推進に求められること～レジリエンスとの関わり～」をテーマに講演があり、そもそもSDGsとは、「全加盟国賛同」が意味すること、SDGsをどう捉えるのか、「誰一人取り残さない」ためには私たち自身が当事者として考えていくことが必要であること、推進における留意点として行政、経済界、大学、地域、市民等における縦割りを排除していく等、SDGsについてそんな見方もあると考える機会となりました。また、SDGsを超えて持続可能な社会を考える上で不可欠な「レジリエンス」とは、先行き不透明で前例のない社会に直面する中での新たな課題として、大胆な改革・発想の転換が必要であり、そのキーワードは「レジリエンス」であること、「レジリエンス」の二つの要素は、ダメージを耐え忍ぶ「しなやかさ」「打たれ強さ」とダメージを受けても被害を最小限にして立ち直る「回復力」であると話されました。また、「レジリエンス」の視点から、人口減少を含む縮小社会に向けた対応についても、いろいろと考えさせられました。最後に「レジリエンス」は決して与えられるものではなく、レジリエントな社会の実現に向けて、SDGsの推進を契機とした、社会全体の価値観の転換、行動様式の変革を連動させることが重要であると話され、SDGsと「レジリエンス」の融合について身近な問題として考えることができました。



▲研究集会の様子

## 2024年度 岐阜労福協産別代表者会議開催報告



▲産別代表者会議の様子

岐阜労福協では、中央労福協の「全国福祉強化キャンペーン」の一環として労働者福祉事業団体の事業推進と利用拡大に向けた取り組みを実施しています。その取り組みの一つとして、11月19日(火)ワークプラザ岐阜5階大ホールにおいて、2024年度岐阜労福協産別代表者会議を開催しました。岐阜労福協からは、労働者福祉運動強化に向けた取り組みの要請と、各労働者福祉事業団体からは、各労働者福祉事業団体の事業推進の取り組みについて、7~8月に産別訪問で要請した以下の内容について、取り組み状況の確認と意見交換を行いました。

1.岐阜労福協が要請した、労働者福祉事業団体の広報・宣伝や事業推進の取り組みについては、以下の通りです。

- (1)貴組織や加盟労組において、定期大会の運動方針に、労働者福祉事業団体の事業推進や利用拡大に関する方針の記載や補強をお願いいたします。
- (2)貴組織や加盟労組の取り組みに関する理解を深めるために、定期大会の議案書を各労働者福祉事業団体の担当職員に渡していただきますようお願いいたします。
- (3)貴組織や加盟労組と各労働者福祉事業団体との更なる連携や、利用促進に向けた取り組みをお願いいたします。
- (4)貴組織や加盟労組の大会議案書・各種会議資料や機関紙等に、各労働者福祉事業団体の広告の掲載をお願いいたします。
- (5)貴組織や加盟労組で開催する、セミナー・研修会等の前段や休憩時間などを利用し、若年層組合員を中心に、労働者福祉事業団体の研修教材を活用し、認知度向上の取り組みをお願いいたします。
- (6)労働者福祉運動の担い手の育成に向け、岐阜労福協や労福協支部が主催します各種セミナーやイベントへの参加とともに、貴組織においても教育研修の企画・実施をお願いいたします。
- (7)上記の取り組みについて、貴組織から加盟労組にご周知下さいますようお願いいたします。

2.各労働者福祉事業団体が要請した、事業推進の取り組みについては、以下の通りです。

(1)東海労働金庫

- ①新たな接点 労組役員との接点(TUNAG)、組合員との接点(WEBパートナーの導入) ②バランスのとれた資産形成(財形・エース預金・新NISA) ③知らせる活動の強化(無担保ローン・スマート口座・ダイレクト) ④ろうきん運動(預金結集) ⑤生涯取引(59歳~65歳組合員+OB組合員への面談活動)OB組織への紹介

(2)こくみん共済coop岐阜推進本部

- ①労組役員啓発活動 ②既加入者推進 ③重点共済の取り組み(団体生命共済、住まいの共済、マイカー共済/自賠責共済、こくみん共済、新団体年金共済) ④ライフサイクル推進 ⑤公式アプリ導入促進の取り組み

(3)岐阜県勤労福祉センター

- ①ワークプラザ岐阜会議室の利用拡大 ②ライフサポートセンターぎふの取り組み周知

以上、各要請項目について全体で確認し、16時15分に終了しました。

### ワークプラザ岐阜と東海労働金庫岐阜支店にフードドライブポストを設置

岐阜労福協は、安定したこども食堂への食品の提供及びごみの減量を推進するとともに、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に寄与することを目的に、ワークプラザ岐阜1階と東海労働金庫岐阜支店ロビーの2箇所に「フードドライブポスト」を設置しました。

ポストで受け付けるのは、(1)未開封のもの (2)包装や外装が破損していないもの (3)生鮮食品以外で常温保存が可能なもの (4)回収する時点において、賞味期限まで1か月以上あるもの (5)アルコールを含まないもの(みりん、料理酒を除く)で、レトルト食品やインスタント食品、缶詰、パスタ・乾麺、菓子、茶葉、コーヒーなどを求めています。

集まった食品は、一般社団法人 こどもがセンターが毎月定期的に回収し、岐阜県内の子ども食堂などを通じて、食品を必要としている子どもたちに無償で提供されます。

フードドライブは、ご家庭であつた食品をご持参いただき、必要な方へお届けする活動です。宮崎孝司代表理事によると、利用する子どもが増えている一方、物価上昇から食品が集まりにくくなっていると話されています。

より多くの方々にこの活動を知っていただき、ぜひ、ご家庭であつていている食品をご持参いただき、フードドライブにご協力をお願いします。



▲ワークプラザ「フードドライブポスト」

## 第20回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式開催

10月28日(月)11:30より、岐阜公園内にある社会貢献顕彰碑前において「第20回岐阜県社会貢献顕彰者追悼式」を執り行いました。

追悼式にはご遺族の方8名と、顕彰委員会委員、労働者福祉事業団体職員の併せて25名に参列をいただき、櫻井事務局長の進行により、厳かにすすめられました。



▲ご遺族のみなさま



▲やすらいの碑



▲顕彰委員会 筒井委員長のあいさつ

追悼式の冒頭、故人を偲び出席者全員で黙祷を捧げ、顕彰委員会を代表して筒井委員長より、現在顕彰碑には22名の方が奉納され、その功績を称えるための追悼式であること、労働運動や社会運動、平和と民主主義を守る諸運動に貢献された仲間を顕彰し、その御靈を慰めると共にご遺族の方を励ますことを目的に活動を展開している旨の挨拶がありました。

また、追悼式に参列いただいたご遺族へのお礼と、御靈になられた方々の安らかなご冥福をお祈り申し上げました。

最後に、ご遺族と参列者全員が顕彰碑に献花を行い、追悼式を終了しました。

追悼式終了後、ご遺族にはささやかな食事をしていただきながら、ひと時でしたが、故人を偲んでいただきました。

## 岐阜県へ要請書を提出

11月20日(水)岐阜県水産会館において、2024年度の岐阜県への要請書を提出しました。冒頭、岐阜労福協を代表し筒井会長の挨拶、要請書の受け渡しの後、櫻井事務局長より、今年度新たに要請する13項目について要請内容の説明を行いました。岐阜県からは兼松商工労働部長より要請書受領の挨拶があり、それぞれの担当課から要請書の回答に対する説明がありました。

※2024年度の要請内容は以下のとおりです。

- SDGs(持続可能な開発目標)の達成について
- 奨学金制度の拡充について
- 被災者支援と防災・減災の取り組みについて
- 格差の是正、貧困のない社会に向けたセーフティネットの強化について
- 消費者行政の充実強化について
- 岐阜県労働者福祉事業費補助金の確保について



▲要請書の受け渡し

以上、合計6分野13項目です。

## 2024年度勤労者チャリティー文化講演会開催



◀講師 杉本昌隆 氏

11月5日(火)18:30より「じゅうろくプラザ2階ホール」において、講師に「杉本昌隆」氏を招き、「弟子・藤井聰太の学び方」をテーマに講演をいただきました。会員をはじめ一般募集もおこない多くの方々に参加していただきました。

講師の選定にあたっては、岐阜労福協および各支部役員の投票により、「杉本昌隆」氏を選定しました。「杉本昌隆」氏は、1980年6級で(故)板谷進 九段の門下となられ、2019年2月22日八段に昇段され、2020年6月の竜王戦ランクギ戦3組決勝では、当時藤井聰太7段と二度目の対戦となり、師弟対決が大きな話題になりました。2022年公式戦通算600勝を達成され、棋界57人目となる「将棋栄誉賞」を受賞されました。現在、トーナメントプロであると同時に、執筆活動やテレビ出演等もこなされ、幅広くご活躍をされています。

講演では、師匠として1回目の対局は師匠の力を見せ、2回目は弟子に勝たせる、1勝1敗の教えを心得ているが、不覚にも藤井少年との対局では1回目の対局で負けてしまったことがあります。後に藤井七冠本人からその時の勝ちがプロになれる決心した出来事だったと聞いたこと、将棋の世界は他人軸より自分軸で生きていかなければならない、同世代の存在が競争意識を高められる、諦めの悪さは必要で最後の最後まで勝ちに拘る気持ちと負けて悔しい気持ちが大切であると話されました。また、弟子たちには意見しやすい空間を作り、対局が終わってから自らが口に出して意見を言い合う関係作りをしていること、常に指した手が最善手でそれで良かったと考え後悔してはいけない、棋士は長考すれば150~200手ぐらい先を読み、特に藤井七冠は考えるのが好きで楽しんで考えている、弟子にいろいろと相談されるが相談されて困ること等、将棋界ならではの面白エピソードを交えてお話をいただき、時に会場では笑いが起り興味深い話が聞け、大変有意義な時間を過ごすことができました。



▲チャリティー募金

※来場者数とチャリティー募金は以下の通りです。

来場者数:会員 292名、一般 19名、地域 23名 合計 334名

チャリティー募金:82,028円

多くの方々にご参加いただき、募金にご協力をいただき誠にありがとうございました。募金は被災地の復興支援に役立たせていただきます。最後に会場の設営・運営にご協力いただきました皆さんには心より感謝を申し上げます。

## 労働者福祉中央協議会 第11回加盟団体代表者会議報告

2024年11月29日(金)に労働者福祉中央協議会第11回加盟団体代表者会議がWeb形式で開催されました。最初にワーカーズコープ連合会の渡辺代議員が議長に選出され、中央労福協 芳野会長の挨拶と、続いて成立宣言(出席71名・委任出席23名・計94名)がされ議案審議へと移りました。

議案審議では、第1号議案 2024年度活動報告、第2号議案 2024年度会計決算報告、2024年度一般会計収支差額処分(案)、2024年度会計監査報告、第3号議案 2024~2025年度活動方針の補強(案)、第4号議案 2025年度予算(案)が報告・提起されました。

質疑等では、石川労福協から、能登半島の状況報告として、現在死者462人(関連死235名・直接死227名)、住宅被害は25,000件以上であること、また9月22日に発生した豪雨とその3日前の地震被害もあったことの現状報告と、全国各地から多くの支援をいただいたことのお礼がありました。また、富山労福協からは来年6月に開催される全国研究集会、「子どもたちの未来」をテーマに準備をすすめていること、参加へのアピールがありました。以上の報告に対し、南部事務局長から答弁があり、石川労福協へは、落ち着かない1年であったことを踏まえ、今後も私たちは出来る限りのことを精一杯取り組みしていくことと、来年2月には中央労福協として、金沢市内で研修会を開催し被災地支援や、被災者再建支援法の取り組みをしていくことが述べられました。富山労福協へは、中央労福協でも子どもの未来第2段として当日の流れを検討している段階であると述べられ、富山労福協と中部労福協に、開催に向けた準備へのお願いがされました。

以上、議案に対する質疑はなく、全ての議案が満場一致で承認されました。

最後に、司会者より2025年度は、国際協同組合年の取り組み、全労済協会のシンクタンク事業の関係団体への移管についての課題があることが述べられ、加盟団体代表者会議は終了しました。



▲労働者福祉中央協議会  
会長 芳野 友子 氏



## 第27回岐阜労福協チャリティーゴルフコンペ開催

11月22日(金)、恒例の岐阜労福協チャリティーゴルフコンペを「ぎふ美濃ゴルフ倶楽部」において開催しました。今年度は、労福協各支部・事業団体・産別代表による14チーム54名の参加での開催となりました。

結果、団体戦は、優勝:労福協西濃支部、準優勝:労福協飛騨支部、3位:労福協東濃支部、となりました。個人戦は、優勝:林伸之さん(労福協西濃支部)、準優勝:小田宣雄さん(事業団体退職者会)、3位:柳田亮介(労福協西濃支部)でした。

また、受付においてチャリティー募金のご協力のお願いをし、51,500円のご協力がありました。ありがとうございました。



【優勝】労福協西濃支部



【準優勝】労福協飛騨支部



【3位】労福協東濃支部

# 第60回岐阜県勤労者球技大会

## ソフトボール県大会開催

2024年10月20日(日)各務原市総合運動公園において、第60回岐阜県勤労者球技大会ソフトボール県大会を開催しました。前日まで雨が降り雨天中止も心配されましたが、晴天に恵まれ予定時間どおり試合を開催することができました。

今年は、各支部2チーム(飛騨1チーム)と、前年優勝・準優勝チームの計11チームの参加による開催となりました。開会式では、筒井会長の主催者代表挨拶につづき、前年度の優勝「大垣市役所職員労働組合連合会」、準優勝「(株)ハウテック労働組合」による優勝杯・準優勝盾の返還を行い、9時30分より試合を開始しました。予選より接戦が続く中、決勝戦に勝ち残ったチームは、昨年準優勝チームの「(株)ハウテック労働組合」と「下呂市職員組合」の「下呂」対決となりました。熱戦の結果、15対12で優勝は「下呂市職員組合」となりました。今大会では、ホームランが多くみられ、パワーアップが感じられた大会でした。



【優勝】下呂市職員組合



【準優勝】(株)ハウテック労働組合

## ボウリング県大会開催

11月10日(日)10:00より岐阜市内マーサボウルにおいて、第60回岐阜県勤労者球技大会ボウリング県大会を開催しました。今大会から各支部で予選を勝ち抜いた上位3チームの参加に戻して、昨年の県大会優勝・準優勝チームの合計17チームにより熱戦が繰り広げられました。ヨーロピアン方式で、競技は1人3ゲーム、チーム4名の合計点により団体戦を行い、結果、優勝は前年に続き、カワボウ労働組合チーム(総得点2,277点)、準優勝はイビデン労働組合Aチーム(総得点2,046点)となりました。また、今大会は特例により1人2ゲームの合計点と1人3ゲームの合計点の両方を表彰することとし、2ゲームの個人の部の優勝は、服部和敏さん(イビデン労働組合Aチーム・総得点433点)、準優勝は桐山勇輝さん(カワボウ労働組合・総得点380点)、3位は鷺見峰樹さん(カワボウ労働組合・総得点371点)、3ゲームの個人の部の優勝は、服部和敏さん(イビデン労働組合Aチーム・総得点670点)、準優勝は堺ちえなさん(カワボウ労働組合・総得点584点)、3位は平川玲さん(カワボウ労働組合・総得点575点)となりました。ハイゲームは、246点で桐山勇輝(カワボウ労働組合)さんでした。



【優勝】カワボウ労働組合チーム



【準優勝】イビデン労働組合Aチーム



**謹賀新年**

こくみん共済 NEWS

みんなが育てた  
安心のネットワーク  
それが「こくみん共済 coop」です

戦後もないころ、ひとたび火災が起きると生活が崩壊する時代。  
そこで職場の仲間たちが少しづつお金出し合い、  
お互いを支えあう火災共済をつくったことが、  
こくみん共済 coop のじまりです。

その後、共済の種類を増やし、さまざまな社会課題に向き合いながら、  
生活協同組合として組合員の皆さんと活動を広げてきました。

今では加入件数2,907万件、  
1年間に支払った共済金は3,255億円と  
大きなたすけあいの輪に発展しています。

※2024年5月末現在

こくみん共済〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会 COOP (岐阜労働者共済生活協同組合)

公式キャラクター ピットくん

2324U007

**ワークプラザ岐阜**

無料駐車場80台完備

各種研修や会議、イベント、セミナーなど皆さまの多目的な用途に応じて大小さまざま  
な研修室を充実した設備とリーズナブルな料金でご用意しております。

〒500-8163 岐阜市鶴舞町2丁目6番地7  
TEL / 058-245-2411 FAX / 058-245-2416  
URL <http://work-plaza-gifu.lekumo.biz/workplace/>  
駐車場 / 80台  
休館日 / 12月29日～1月3日

会場名	面積(m <sup>2</sup> )	収容人数
大ホール	305.87	210
大会議室	131.57	78
大会議室	123.62	78
中会議室	62.38	36
小会議室	404	37.16
小会議室	405	(12.5畳) 12

**新春のお慶びを申し上げます**

東海労働金庫  
専務理事 高田勝之

こくみん共済coop 岐阜推進本部  
本部長 内藤 浩

(一社)岐阜県勤労福祉センター  
理事長 筒井和浩

お知らせ

「労働組合のための  
会計税務研修会」  
のご案内

日時 / 2025年3月24日(月) 13:30～15:00  
場所 / ワークプラザ岐阜 5階 大ホール  
講師 / 中央労福協顧問税理士 小倉秀夫氏  
内容 / 「労働組合 会計・税務の基礎知識」  
～実務に則して徹底解説～